

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.623

2013.5・6 May・Jun

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA 年間聖句 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
(ローマの信徒への手紙12:15)

イースター早天礼拝開催

3月31日(日)の早朝、神戸YWCA・神戸YMCA 合同のイースター早天礼拝が行なわれ、150名ほどの仲間が集められました。今年日本基督教団神戸雲内教会の床次 隆志(とこなみ たかし)牧師をお招きし、「夜が明ける」という題でメッセージをいただきました。メッセージの中で床次先生はイースターとは、夜から朝にかけての「光」というものがテーマではないかと伝えられました。以下に要旨をご紹介します。



主イエスの復活を祝うイースター。受難週に入りイエスが十字架につけられようとする、最後の晩餐の場面。そんな時でも弟子たちの足を心込めて洗われました。裏切り者のユダにも皆と同じように注がれる愛の業。愛の行動です。想像するだけでも痛々しい十字架の死。しかしこの死からの復活が私たちの心の友として、いつも傍らにいてくださるのがイエス・キリストなのです。

弟子たちへの愛だけでなく、私たちをも包み込んでくださっている愛。そしてイエスの生き方、言葉、振る舞いを通して見えないイエスに出会うということが今の私たちの生活の中に起こりうることはないかと思えます。気がつけば助けられ、寄り添ってくれた人がいて、再び元気を取り戻し、歩むことができるような経験をしたとき、「イエスさまがともにいてくださったんだ」と感じます。光を感じとることができるのがイースターです。

イエスを犠牲にしてまでこの世を愛して下さった神様の愛を感謝する日でもあるイースターが2012年度は4月と年度最終日の3月31日と2回ありました。「イエスさまが共にいてくださるんだよ。見えないものを見るんだよ」との神様からの熱いメッセージを感じてなりません。

形あるものだけを信じるのではなく、見えないものを見ようとする心、弱い人、苦しみ悲しむ人に心が寄り添える者として、歩んでいきたいと願います。「明日を思いわずらうな! 今を生きよう」というイエスの言葉に力を得て、新しい一年の神戸YWCA・YMCAの歩みが豊かなものとなりますように祈ります。

定期総会 公示

- 日時: 2013年5月31日(金) 18:30~
- 場所: 神戸YMCAチャペル
- 議事: 1. 2012年度事業報告の件
2. 2013年度方針及び事業計画の件
- 報告表彰: 1. ボランティア奨励賞
2. ユースボランティア紹介

創立記念日礼拝 (127周年記念礼拝)

1886(明治19)年に発会してから127年を迎えます。

日時: 5月8日(水) 午後6:30~8:30

場所: 神戸YMCAチャペル

メッセージ: 「神の呼びかけに答える

YMCA」
山本 俊正 氏
(関西学院大学宗教主事・神戸YMCA国際委員)

未来への提言

公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会(JOCS) 総主事 大江 浩



私の「今」に繋がる重要な基礎となった。JOCSは海外医療協力NGOの草分けであり、前史は75年前の日中戦争時の中国難民救済活動に遡る。源流は学生YMCAである。

私が思うJOCSとYMCAに共通のキーワードは、以下の5点である。第1に、「人と向き合い、人を支える」こと。JOCSの主な事業は保健医療だが、障がいを持つ人々へのケアやリハビリなどの活動にも広がっている。命を支えるためには、違いを乗り越え、相互理解と対話、住民の参加が欠かせない。第2に、地域に根ざし、「貧しく小さく弱くされた人々」と共に歩むこと。JOCSは、その活動の5つの焦点(対象)の内、「女性と子ども、障がい者」を重視している。第3に、会員(市民)とボランティアを核とする組織であり、運動体であること。第4に、活動を通じて「みんなで生きる」平和な世界を創り出すこと。私たちは、奪い合いから戦争が生まれ、分かち合い・支え合いから平和が生まれることを知っている。JOCSとYMCAは、人々の命と平和のために存在する。第5に、「キリストを羅針盤とし後ろ盾として、その生き方に従う群れ」であること。

YMCAは、地域から多くの支援を頂いている。そのお返しに地域に対して貢献できることがもつとあると思う。豊かに蒔けば、豊かに実を結ぶ。YMCAの人的資源とネットワークは、最も重要な価値だが、「中」に在るとその素晴らしさに気づかないことがある。窮した時、内向き思考に陥る時に、自らの価値を見失い、無力感に苛まれることもある。神様は、しかし試練の只中にある時に、働かれる。

私たちは「微力」ではあっても、決して「無力」ではない。JOCSとYMCAは、活動の形は異なっても「神様の器」である。人々の「呼び声」に応え、果たすべき使命がある。知恵と力を尽くし、祈る力を強めなければならぬ。それは「私たちのため」ではなく、「私たちを必要としている人々のため」、そこに私たちの存在理由がある。

東日本大震災復興支援活動報告

2月17日(日)、東日本大震災復興支援チームリーダー会は、被災避難家族対象「ファミリーデー」を、六甲山YMCAにて行いました。

参加されたファミリーと一緒に、ドラム缶に火をおこし、一面雪景色の屋外で「焼き芋」を作りました。子どもたちも、大きくて甘い焼き芋をしっかり手に持ちながら、みんな最後まで食べきっていました。子どもたちは、たくさんの雪で一生懸命にかまくらを作ったり、下り坂でそり遊びをしたり、また、雪合戦もしながら、一日雪の中で思いっきり遊びました。

お母さんたちは子どもたちと外で遊んだ後、部屋で話をしたり、お父さんは子どもたちの手を引いて木に登ったりとそれぞれがゆっくりと時間を過ごすことができました。

朝の集合した時、以前一緒にキャンプをした子どもとリーダーの再会、そして初めて参加する子どもやお母さん、お父さんとの出会いがありました。

このファミリーデープログラムは今回が2回目です。次回も、子どもたちやお母さん、お父さんたちと一緒にゆっくりとした時間を過ごすことができるようなデイキャンプを行いたいと思います。

私たちリーダー会の支援活動費用は、街頭募金を用いています。本当にありがとうございます。今後とも皆様のご協力ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(東日本大震災復興支援チームリーダー 宮原 明)



社会福祉法人 設立25周年

1988年に設立された社会福祉法人神戸YMCA福祉会は、今年で25周年を迎えます。

地域の皆様に支えられて設立されたYMCA保育園をはじめ、2003年には西宮YMCA保育園が、2005年にはYMCA保育園分園が、2007年には神戸市立太山寺児童館の運営が始まり現在は西神戸YMCA保育園および2012年に開園しました、西宮つとがわYMCA保育園が開園され、約500名を超える園児、児童が毎日通ってきています。

YMCA保育の歴史は、遡り、1970年に財団法人立の「西神戸YMCA保育園」(神戸市長田区1997年阪神淡路大震災により廃園)が神戸YMCAでの認可保育園としてはじまりです。更に以前の1959年には、「地域ニテ乳幼児ヲ保育スル必要有リ」(当時のYMCA委員会記録)との地域の声をお聴きし、「幼児保育」が無認可でスタートされました。

現在、保育の制度は、目まぐるしく変わっていきませんが、イエスキリストが示された、「子どものいのちの根を育てていくこと」をいつまでも忘れずに、歩いていきます。25周年の記念として、1970年からの歴史の編纂と地域の皆様への記念プログラムを今年度は各施設で実施してまいります。



お帰りなさい、先輩!

毎年の4月下旬、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科は、2泊3日の余島実習を行っています。今年も4月25日から27日まで、1年生と2年生の合同で実習を行いました。この実習を通じて、お客様をおもてなしをするにはどうすればよいのか、お客様を楽しませるにはどうすればよいのか、お客様に楽しんでもらう前にどう自分が楽しむのか、を実感してもらいます。

今年はスペシャルゲストとして、元神戸YMCA職員であり、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科卒業生の石床渉さん(いしとこ・わたる、現在は一般社団法人小豆島観光協会に事務局長として勤務)に来ていただき、豊富な海外ホテル勤務の経験を語っていただきました。

石床さんは、ホテル学科在学中から、モルディブ、オーストラリア、タイなどのホテルで実習をし、卒業して神戸YMCAに奉職した後、マレーシアや香港のホテルで勤務をされていました。石床さんの豊富な経験から、海外で日本人としてどう振舞えばいいのか、現地に溶け込む心構えはどんなものか、危険からどう身を守ればいいのかなどを、ホテル学科在學生に情熱をこめて語っていただきました。

石床さんからのメッセージを受けて、さあ、これからどうしていったらいいのか、深く考えさせられた今年の余島実習でした。



感謝・寄付

感謝をもって

ご報告いたします。

(順不同、敬称略)

【寄付】

日本基督教団神戸多聞教会

兼田 幸子

上杉 徹

塩田 都造

【国際協力募金】

(東日本大震災復興支援 含)

日本基督教団神戸多聞教会

神戸市立福池小学校

マラソンクラブ

福池小学校希望の風

2012年度国際協力募金感謝 かけがえのない いのちと平和

2012年度神戸YMCA国際協力募金が2月末をもって終了いたしました。約380万円の浄財が寄せられました。ご協力くださいました皆さまに、心よりお礼申し上げます。この募金は神戸YMCAが行なう国際協力、地域奉仕活動に、そして日本YMCA同盟を通して災害支援、難民支援等に用いらさせていただきます。

(東日本大震災支援募金へは、別途、約280万円が寄せられました)

●YMCA国際協力募金は

世界の国と地域に広がるYMCAのネットワークを通じて、すべての人びとが国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことが出来る世界をつくり出すための国際協力、地域奉仕活動に用いられています。

●ともに支えあう

18年前、私たちの地域は困難な環境にありながらも、世界中の様々な人びとにより強く支えられる経験をいたしました。一昨年生じた東日本大震災には、私たちが支えられたように、被災地の方々に寄り添う活動を行っています。互いに支えられ支えるという関係は国内外の多くの機会にあります。互いの関係が強められるよう、国際協力募金が用いられています。

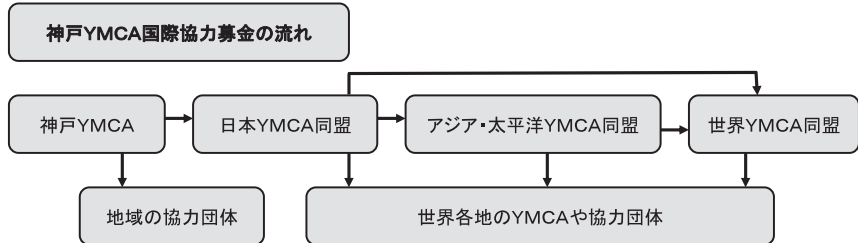
●ひとりひとりを大切に

私たち一人ひとりが互いに関心を持ち、誰もがともに支えあえる関係であるように、YMCAでは、豊かな出会いと体験を通して、人と人とが交流し学びあうことができるよう、日々の活動に取り組んでいます。

●地域とともに

神戸YMCAは、「すべてのいのちが光り輝くように」という願いのもと、それぞれが与えられた地域で平和をつくりだすことができる人が育つように、多くの出会いと学びの機会を提供しています。

多くの会員の皆さま、地域の他の関係者の皆さまとともに街頭募金活動や啓発活動にも努めてきました。皆さまのご協力とご理解に重ねて感謝申し上げます。



街頭募金活動(ワイズメンズクラブ六甲部ととも)



情報技術学習(IT)センター建設(第30回タイワークキャンプ)

ソナタ 奏鳴曲 No.57



総主事 水野雄二

「ドラえもん」がいた時代

私が育った小さな街には城山があって、子どもの頃は自然の豊かな城山や空き地で山歩きやかくれんぼ、草野球など、太陽が沈むまで近所の友達とよく遊んでいました。まるで「ドラえもん」の世界のように、そこには個性豊かな「仲間」がいて、土管が置き捨てられているような「空間」と拘束されない自由な「時間」がありました。

「のび太」も「ジャイアン」も「スネ夫」もいました。ひょっとしたら「ドラえもん」もいたかもしれません。その中で、いじめたりいじめられたり、泣いたり笑ったり、励ましたり慰められたりしたものです。今の子どもたちは、自然に恵まれた遊び場が奪われると共に過密スケジュールの毎日で家族や仲間たちとの触れ合いも失われ、遊び自体が大きく変わってしまいました。

この度、神戸YMCAも一員の兵庫県青少年団体連絡協議会が『子どもの頃の体験が大人になってどのような影響を及ぼすか』についての調査をまとめました。そこには自然の中での仲間との遊び体験が人生の基礎として様々な好影響を及ぼしていることが明確に示され、怪我をしたことや仲間とけんかをしたことでさえ極めて有益であったと高い評価を得ています。特に幼児期における自然との関わりは重要で、自然自身が子どもたちに働きかけ、豊かに感情を表現できる人間への成長を助けます。このことを幼児教育の祖と言われるフレーベル(1782~1852)は端的に詩っています。

「自然は子どもに話しかけます。感覚を通してはつきりと。感覚から心の門はひらきます。そうすれば、あなたの幼子がいつかは多くの苦しみや悩みを避けることができ、明るさと意欲と喜びをさえ望むことでしょう。」

夏は子どもたちにとって自然と触れる絶好の機会です。幼児に限らず子どもには自然との触れ合いが大切です。「仲間」と「時間」と「空間」が必要です。さあ、YMCAの夏がまもなくやってきます。さて、「ドラえもん」に出会うことはできるでしょうか？

シリーズ じんぎょうのきんぎょ 28

第30回 タイワークキャンプ報告

3月14日から26日までの12日間、タイワークキャンプを行いました。今回は記念すべき30回目のワークキャンプとなりました。今回のワーク地は、チェンマイから車で5時間ほどのメーホンソン県メーサリアン郡にある学校に情報技術学習(IT)センターの建設をしました。タイは急速な経済発展や、通信環境の整備によってインターネット設備は非常に整っています。しかし、インターネットなどの通信技術に対する十分な教育がなされていないため、今後はこの教室を使用して情報倫理などの授業が行われる予定です。



ワークの内容は壁のコンクリート塗りや、塗装のお手伝いでした。多くの村人が協力をしてくれていて、初めの頃、私たちは何をしたら良いのかを迷いながらしていましたが、だんだんと村人ともコミュニケーションが取れ始めて、今何が必要かなどが解つてくるとスムーズになっていきました。

今回のキャンプはタイ、ラオス、日本の3カ国からの参加となりました。日本からの参加は6名と少なく残念でしたが、少ないが故に一層団結心を持ってキャンプにのぞめたように感じます。参加者は言葉の壁、習慣の違いなどに戸惑いながらも必死に思いを伝えようと努力をし、そんな仲間を懸命に支える周囲の参加者が見られたのはとても嬉しく感じました。

キャンプを通じ国際交流の難しさやタイという国の現状などに直面してきましたが、人と人が出会い「共に歩む」ことの大切さをより一層感じる事が出来ました。このプログラムは多くの方々を支えられ、育てられてきたプログラムです。今回のキャンプへのご協力に感謝し、今後も継続して支えていただきますようお願い致します。

タイワークキャンプ引率 山本正高(神戸YMCA職員)

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401



Information

西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神戸YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016

みんなで作ろう! とびきり楽しい夏の思い出。

夏のキャンプのお誘い

夏休みはYMCAのプログラムへ!

子どもたちが大人になった時、社会で自分の力で生きていかなければならない時、何が問われるか? それは、知識、行動力、判断力、創造力、適応力、協調性、強いメンタルなどなどの力が、総合的にどう備わっているかということになります。

YMCAキャンプは、そのような力を、プログラム楽しみながら、仲間やモデルとなるリーダーとともに身につけていくことができるキャンプです。ひとりひとりの個性は大切にしながら、全人的な子どもたちの成長を願っています。是非、ご参加ください。



PHD協会の日本語研修開始

4月15日から公益財団法人PHD協会の日本語研修が始まりました。

今年の研修生は、ネパール、インドネシア、ミャンマーの3人です。

神戸YMCAで受けてもらう日本語研修は5月30日まで。その後、全国に散らばって有機農法や保健衛生の研修を1年間受けます。



神戸青年100年

1913年(大正2)に神戸青年第1号が発刊されて、今年で100年を迎えます。『神戸とYMCA100年』には、神戸青年発刊の前に1888年(明治21)10月に『青年会月報』が発刊されたとの記述があります。残念ながらこの青年会月報は1889年(明治22)3月号を最後に廃刊になったようです。青年会月報が発刊された同じ時期、京都の普通教校(のちの龍谷大学)の有志が、禁酒を断行し、青年の生き方を探る機関紙『反省会雑誌』を発刊します。『反省会雑誌』は1899年(明治32年)に『中央公論』と名を改め、現在に至ります。

神戸と京都、場所は違いますが、同じ熱い青年の思いが息づいていました。101年目を迎える『神戸青年』。これからも熱い願いを抱きながら刊行を続けていきます。



神戸YMCA高等学院卒業式



3月11日、神戸YMCA高等学院では第9回の卒業式を行いました。

卒業した33名はさまざまな課題を抱えながら入学してきましたが、生徒たちは教職員だけでなく、さまざまな部門のスタッフなどにも気を掛けていただき、無事に卒業することができました。卒業生のスピーチはひとりひとりの思いが込められており、とても素晴らしいひと時となりました。

卒業生のスピーチはひとりひとりの思いが込められており、とても素晴らしいひと時となりました。

モザンビーク緊急支援 報告

1月に発生したモザンビーク共和国での大洪水被害に対し、神戸YMCAでは緊急支援の呼びかけを行いました。

2月28日までに皆様から寄せられた文房具は、段ボール箱で15箱となり、募金は220,866円となりました。物資総量180kgは、神戸YMCAより、4月

16日付で航空便ならびに船便にてJICAモザンビーク事務所へ発送させていただきました。

一人でも多くの子子どもたちが、日常に戻り、学び舎に集うことができることを願います。皆様のご支援、ご協力量に心よりお礼申し上げます。



★★ 個人消息 ★★

<退職>

今までのお働きに感謝いたします。
西谷 香名子さん(西宮つとがわYMCA保育園 保育士)

お詫び

神戸青年4月号の人事のお知らせの中で、間違いがありましたので、つつしんで訂正いたします。

<異動>

4月1日付
藤井 信人 余島野外活動センター→ウエルネスセンター学園都市

<採用職員>

4月1日付
誤) 柳谷 謙介 西神戸プランチ
正) 柳原 謙介 西神戸プランチ